

本の

HON-NO-HIROBA

ひろば

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2025年7月1日発行(毎月一回1日発行)第811号

出会い・本・人

トマス・アクィナスと「真作ではない著作」 松村良祐

特集 シリーズの三冊!

信仰が折れそうになるときに読むこの三冊!

〈牧師も悩んでいます〉 上林順一郎

本・批評と紹介

B・M・メツガー、B・D・アーマン著/橋本滋男、前川 裕訳

増補改訂版 新約聖書の本文研究 津村春英

丹治めぐみ、左近 豊編 聖書からの贈り物 横山ゆずり

棟居 正著 はじめてのヨハネ福音書 石丸昌彦

日本キリスト教団出版局編

説教黙想アレティア叢書 創世記29―50章 宮崎 誉

松本敏之著 神と民の契約 荒井 仁

金子晴男著 キリスト教思想史の例話集Ⅱ 命題集 阿部仲麻呂

松本雅弘著 自分自身と群れ全体とに気を配りながら 山口陽一

吉田 隆、長谷部弘、弓矢健児、豊川 慎著

平和の福音に生きる教会の宣言 澤 正幸

◆ 近刊情報

◆ 書店案内

あかりを灯しつづけて37年

大野顯二著 (おおの・けんじ氏は成松教会の元牧師)

5月23日

兵庫の小さな町に教会がある。歴史があり、差別もある。牧師はそこで説教し、町の人々と共に生きてきた。時にはうつを患いながら……。説教と自伝的講演を収録。宣教とは、キリスト教に生きるとは何かを静かに考えさせる。

四六判・定価1430円



私が出会った人々 神の庭にて

大野恵正著 (おおの・よしまさ氏は活水女子大学名誉教授)

6月23日

私という人間は、私ひとりによる自己形成の結果ではなく、神の計らいによって人生の道々で出会った、有名無名の多くの人々との触れ合いの中で形づくられた。懐かしい師、信仰の友、そして愛妻との出会いを滋味豊かに綴る珠玉の信仰随想集。

四六判・定価1980円

静寂者ジャンヌ 生き延びるための瞑想

山本賢蔵著 (やまもと・けんぞう氏は元NHK外信部記者)

3月25日

ルイ十四世の時代を生きた一人の女性の生涯と思想に迫る。彼女は「異端の女性神秘家」として闇に葬り去られてきたが、その生涯は、男性支配のミソジニー社会の中で自己を貫き通した鮮烈な抵抗だった。日本で初となるギユイヨン夫人の本格評伝。柳田邦男氏推薦。

四六判・定価3300円



自分自身と群全体とに気を配りながら

松本雅弘著 (まつもと・まさひろ氏は高座教会の元牧師)

4月11日

主から託された教会に37年間仕えた牧師の思いがほとばしる説教と論考。併せて3本のインタビューを収録し、説教の方法、牧会との関係、神学との切り結びなどについて牧師の率直な声を引き出す。

A5判・定価2200円



ユーモア入門

人生を楽しむ7法則
宮平望著

神学者バルトの標語は「力強く、落ち着いて、ユーモアをもって」だった。ではユーモアとは何か? 聖書から落語まで古今東西の笑いを参看し、その多様な形と本質を探る。

A5判・定価2310円

倫理

DBW 版新訳

大反響

ディートリヒ・ボンヘッファー著/宮田光雄監訳

ボンヘッファーがライフワークとして取り組み、ナチによる逮捕と刑死によってついに未完に終わった倫理学。新版全集第6巻(DBW6)は奇跡的に亡失を免れた草稿を徹底的に校訂し膨大な脚注を付して成立順に再構成。待望の完訳。 四六判・定価6930円





こぼれ落ちる時間の向かう先——トマス・
アキナスとの出会いから

松村良祐

いまから20年ほど前の大学院に入って間もない頃、図書館の書庫の片隅でトマス・アキナスの『資料の本性について』という本を目にしたことがあった。手にしてみると、それはフリブール大学から出されている哲学シリーズの一冊として校訂・刊行されたものであったが、アキナスの著作としては偽作の可能性の高いものであった。『トトレルによる』トマス・アキナス——人と著作』でも「真作ではない著作」のひとつに数えられている。

ふと何気ない話のなかで、その本の話を指導教授の先生にしてみたところ、「人がもっている時間は少ないですよ。しっかりとしたものを読むようにしなさい」とおっしゃられた。その言葉は当時からふらふらと関心を変えがちな私をたしなめる言葉であったかもしれない。しかし、それから20年あまりが経ち思い返してみると、その言葉は私をたしなめるだけでなく、その背後には先生ご自身の深い洞察があったように思われてくる。アキナスやポナヴェントウラら中世の思想家の著作は一度読んだだけでは理解

し尽くせない。何度も繰り返して読み、時間をかけて彼らの言葉を反芻することで、ようやく彼らの思想の一端に触れることができる。そして、それらには時代を超えて人の思考や魂に響く古典としてのちからがあり、それに触れることで、私たちの内面もまた豊かになり、深い理解に至ることができるようになる。

図書館で目にした本の話を通じて、先生は限られた時間のなかで何に価値を見出し、どのようにそれを使うのかという問いを私に投げかけていたように思われる。「あらゆるものは他人のものであるが、時間だけは私たちのものである」と言われる（セネカ『ルーキエリウス宛道徳書簡集』10）。しかし、その時間すらも私たちが手にした途端、すぐに手からこぼれ落ちていってしまう。限りある時間のなかで、彼らのテキストに向かい合い、その言葉を噛みしめながら真摯に読み進めていきたいと思う。

（まつむら・りょうすけ 藤女子大学文学部准教授）



▼シリーズ この三冊！

信仰が折れそうになるときに読む三冊！

～牧師も悩んでいます

上林順一郎

(かんばやし・じゅんいちろう…日本キリスト教団隠退牧師)

『母の詩 河野進自選集』

ぼくは神学校へ行って 牧師になる
と言った 父は怒りで絶句し 親戚
はあざけり ののしった 母は涙を流
しながら 一言いった これだけ反対
されるのですから生涯やり通しなさ
いよ ぼくは母の涙ながらのはげまし
を今も はつきりおぼえている (河野
進はげまし)

高校二年生の秋、「神学校に行つて
牧師になりたい」と両親に告げました。
父は黙っていました。母は怒り出し

「親の期待を裏切るつもりか。牧師に
なつても貧乏生活が続くだけでしょ
う」とのしりました。長男のわたし

は親の期待に応え大学に進み、大企業
に就職して両親の面倒をみるつもりで
した。それが突然崩れたのです。「牧
師になりたい」のひと言で……。

牧師になつてからも悩むことがあり
ました。「お父さんは牧師さんです
か?」「イエエ!」「クリスチャン
ホームですか?」「イエエ!」答える
たびにこころが揺れ、痛みました。

「親に対して信仰の導きもできない、
牧師失格ではないか」そんな声が聞こ
えてくるのでした。

わたしの両親と妻の父はしたしく
交際の機会もなかったが 申しあわせ
たように 不治の病と自覚したとき
洗礼を申し出た 主イエスの救いを信
じてか 牧師である息子への最後のは
なむけであったか どちらにしても
わたしは心から感謝した(河野 進
はなむけ)

詩集「母の詩」の作者河野進さんは
日本キリスト教団玉島教会の牧師とし
て長年伝道活動を続け、またハンセン
病療養施設「長島愛生園」や「邑久光
明園」での伝道や支援活動を行いつつ、
こころの様を詩に託し最初の詩集「母
の詩」(1980年)を発刊、続いて
「おにぎりの詩」(柏樹社1981年)、
「ぞうきん」(幻冬舎2013年)を刊
行、多くの読者に感動と励ましを与え

てきた詩人牧師です。

牧師となって30年あまり経った十二月のある夜、母教会の恩師から突然電話がありました。「キミ、ご両親がクリスマスに洗礼を受けたいと申し出てこられた」「教会に行っているのですか?」「いや」「それで洗礼はイイのでしょうか?」「本人が受けたと言っているのだ。聖霊の働きがあったのだろう」

クリスマスの夜、恩師から再び電話がありました。「洗礼式は無事終わりましたよ。礼拝後のお祝い会でご両親が息子には親らしいことは何もしてやれなかつたが、せめて最後に洗礼を受けることで息子孝行になればとあいさつされた。〴〵息子孝行、だとね!」

高齢の両親が洗礼を受けたのは親不孝の息子への初めてのもので、そして最後の〴〵子ども孝行、だったのでしょうか。牧師としての無力さに苛まれつつも感

謝の祈りを捧げたクリスマスの夜でした。

『バルトと蕎麦の花』 阪田寛夫／著

鬼の面 つけたる老人 四人来て
我に罷めよと 連判状出す

北関東の山に囲まれた小さな町の教会のユズル牧師が詠んだ歌です。ユズルは農村伝道を使命とする神学校に入学しカール・バルトの神学に出会います。「歩き始めた赤ちゃんが、母親と手をつないで散歩に出た。この時、赤ちゃんが母親の手を固く握っている場合は、転ぶと手を離してしまふ。逆に、お母さんが赤ちゃんの手をやわらかく握っている場合は、赤ちゃんが倒れそうになると、きつく握り直して引き上げてくれる。ゆえに、わたしは神様におすがりする」と思うのは、いかにも不確実だ。確かなのは、神様が手を引いてくれること、〴〵の方だ」ユズルなり

のバルト理解でした。

神学校を卒業し都内の下町の教会に赴任しますが、ユズルがただ一人勧めた洗礼を受けさせた若い青年が自殺する事件が起こります。牧師にとって教会員の自死は再び立ち上がることでできないほどの挫折と絶望をもたらします。ユズル牧師は教会を辞任し山峡の地の教会に転任します。数名の信徒によつて設立された長い歴史のある教会ですが、就任八年目に牧師辞任の要求が突き付けられます。その折に詠んだのが先の歌です。

教会総会では「真面目で燃える信仰を持った老人が六年間二十人前後の信徒が少しも増えない、と怒り出した。それは牧師の使命感が足りないからであり、命を賭して伝道する気概に欠けるからだ。信徒が増えないから献金も集まらない」牧師への苛烈な批判が続きます。

我が裡の深き所にとどまりし

憎しみの小石 一つの日浴けん

ユズル牧師は教会を辞任し、蕎麦の産地で有名な隣県の農村の伝道所に転任します。

実は、ユズル牧師が辞任した30年後、わたしは都心の教会からその教会に転任しました。「鬼の面 付けたる老人」ではなく、信仰厚く、心優しい教会員と四年間を過ごしました。聖霊の導きだったのでしょうか、いまでは第二の「母教会」です。

さて、小説は転任した伝道所でのクリスマス礼拝の場面で終わります。「もう説教の後の祈りに入っていた。ユズル牧師は一言一言はつきり神様に聞き取ってもらえるように、ちよっと短い舌で、力強く区切りながら祈っていた。『神さま。あなたの御子の、誕生を、心から、祝います。どうか私たちの、この、真中に、あなたが今日誕

生してください』会衆は頭を下げたまゆつくり『アーメン』と和しただけであった」

牧師も失敗し、挫折を味わい、立ち直れないような状況に陥ることがあります。しかし、牧師のつたない働きや説教や祈りに「アーメン」と和してくれる教会員がいる限り牧師は立ち直ることができるとは。赤ちゃんのような私たちの手をしっかりと握ってください。さっている方が会衆の「アーメン」に和してください。

『74歳、ないのはお金だけ。』

あとは全部そろってる』

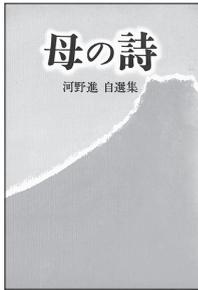
牧師ミツコ／著

「まだやれるが辞め時で、そろそろはすでに手遅れ。辞めると言われた時には死んだも同然」先輩牧師の言葉です。「まだやれる」と思いつつ70歳で隠退を考えました。その頃の夫婦の会

話はもっぱら隠退後の生活。「隠退すると、謝儀はなくなるのね」、「そうだね」、「どうして生活するの?」、「年金だね」、「年金だけでやっていけるの? 老後の資金は二〇〇万円が必要と新聞にありましたよ」「……」

近くの本屋である日『74歳、ないのはお金だけ。あとは全部そろってる』という本が目に残りました。著者は「牧師ミツコ」とあり、神学校の同級生と結婚し、「牧師夫人」の役割を果たしながら四人の子どもを育て、牧師が病気で退任した後は教会の主任牧師として10年間教会の責任を持ち、退任後も協力牧師として働き続ける牧師とありました。思わず買って読みました。読後感身も心もスッキリ、老後の生活は年金だけで足りる!

「牧師の家庭に生まれ育ったので、貧乏は慣れていきます。父は、家にお金があっても、うちよりもっと困ってい



『母の詩
河野 進 自選集』

河野 進：著
柏樹社
1980年
四六判 124頁
1,100円

※現在は販売しておりませ
ん。図書館のご利用をお薦
めいたします。

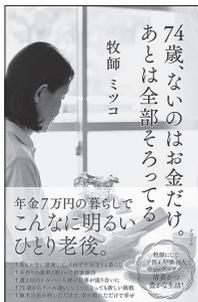
る人に分け与える、と思っ
ていた人でした。そんな生
活でしたので、あるものに
感謝して、その中でどうに
かする習慣が身につきました
と、牧師ミツコさん。「笑
顔になれない時もあります
。そんなときは、無理はし
ません。落ち込むときは落
ち込むし、泣きたいときは
泣きます。……悲しいとき
や悔しいときは神様に祈り
ます。



『バルトと蕎麦の花』

阪田寛夫：著
一麦出版社
2017年
四六判 111頁
1,980円

ろいろぶちまけて、自分の
感情を丸出しにします。そ
うすると、私はなぜ悲しい
と思っ
ているのか理由が分かり、
すくっと冷静になれるの
です」牧師ミツコさん自由
で、自然体です。「悩みが
ある時は、神様にお祈りし
て吐き出します。自分ひと
りで背負っているとは思わ
ない。半分は神様に託して
しまいます。……私は聖人
君子ではありません。いつ
でも悩み、迷い、



『74歳、ないのは
お金だけ。あとは全部
そろってる』

牧師ミツコ：著
すばる舎
2020年刊
B6判変 192頁
1,430円

苦しんでいます。泣くこと
も怒ることもあります。あ
りのままの自分を大切に
にし、生きていきたいと思
います」
「明日のことまで思い悩
む。明日のことは明日自
らが思い悩む。その日の
苦勞は、その日だけで十
分である。」
（マタイによる福音書6
・34）とのイエスの言葉
に生きる「牧師ミツコさ
ん」74歳に完敗！「隠退
牧師ジュン」84歳、いま
だ迷える羊？

新約聖書原本のあくなき探求

〔書評者〕
津村春英



増補改訂版 新約聖書の本文研究

伝達・改悪・回復

B・M・メツガー、

B・D・アーマン著

橋本滋男、前川 裕訳



新しい「新約聖書の本文研究」が出版された！ 周知のように、新約聖書の原本は現存せず、印刷技術が確立されるまでは、写字生と呼ばれる人々が聖書の言葉を書き写した。多くの人々によって何度も書き写された結果、膨大な数の写本が生まれ（二〇二五年一月時点で六〇七〇写本、本書六二頁）、語、句、文の省略、置き換え、順序の入れ替えといった「異読」（訳書によっては異文、異本と訳出）が存在するに至った。新約聖書全体を含むものは少なく、殆どが部分的なもので、ギリシア語写本、古代語訳、教父文書などから得られるデータを系統的に整理し分析して、聖書の原本を限りなく復元しようとする試みが、本文（ほんもん）研究、本文批評学である。

近年、我が国では二種類の新しい翻訳聖書が相次いで刊行された。訳文の良し悪しは別にして、特筆すべきことは、

二〇一七年刊行の新改訳聖書には「異本」、二〇一八年刊行の聖書協会共同訳聖書にも「異」（底本以外の読み）が必要に応じて欄外に注記されたことである。つまり、読者に、本文に採用されなかった写本の異なる読みが提示されている。このように、今や、牧師、伝道者、神学生にとどまらず、すべての読者が、聖書写本の本文批評について知ることができる時代になった。

この度、新約聖書本文研究の入門書と目されるブルー・ス・M・メツガー『新約聖書本文研究』の増補改訂四版の翻訳書が出版された。原著第二版（一九六八年）が一九七三年に、原著第三版（一九九二年）が一九九九年に、当時の同志社大学神学部教授・橋本滋男氏によって翻訳され紹介された。その後、二〇〇五年にメツガーとその門下生バート・D・アーマンによって増補改訂四版が出されたの

であるが、今回、奇しくも橋本門下生の前川裕氏によって翻訳され出版をされたことに、同門下生の一人でもある評者は大いに喜んでゐる。その労に心から感謝したい。

旧版より新たに加えられたものの中で、とりわけ、第六章「VII 新約聖書本文批評におけるコンピュータの使用」「VIII 進行中の重要なプロジェクト」に関しては、科学的手法は日進月歩で進展し、原著刊行から今日までの時間的空白は否めないが、翻訳者によって脱稿直前までの新しい情報をもって十分に見事に補完されている。さらに、第八章「IV 初期キリスト教の社会史に対する本文情報の利用」も追加され、社会史の観点から写字生への影響について論述されている。

前版を継承する部分については、全面的に見直され、細

老いをどう生きるか

渡辺正男



米寿を迎える熟練の牧師が老いゆく自分に向き合いつつ、老いの生き方を聖書に聴き取る。健康もお金も、もちろん大事。それ以上に真に支えになるのは主イエスの福音であることを平易な言葉で伝える。

四六判並製・176頁・定価2200円

教会は初めてのあなたへ

小林よう子 編



初めてキリスト教や聖書、教会に出会う方でも読めるようキリスト教用語を使わずに、キリスト教の教えや教会について32人の牧師が手紙形式でやさしく語る。

四六判並製・112頁・定価1430円

部にわたって手が加えられている。複雑な記号や文献はよく整理され、読者の理解を助けるために、関連写真は該当する記述の近くに、注記は下欄に配置変更され、文章もずいぶん読みやすくなっている。なお、原著刊行以降の研究の動向については、「訳者補遺」で二〇頁近くにわたって詳しく述べられている。それゆえ、本書は正真正銘、新約聖書本文研究の最新本と言って過言ではない。また、聖書の奥深さを学ぶことができる興味深い書である。是非、手にして読んでいただきたい。新約聖書本文研究の入門書としても、本書がこれから長く読まれることを期待したい。

(つむら・はるひで) 大阪日本橋キリスト教会牧師、大阪キリスト教短期大学名誉教授

(A5判、四四八頁、定価六六〇〇円、日本キリスト教団出版局)

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)
<https://bp-uccj.jp>

「この聖句はあの人に」と隣人に思いを馳せてみよう

〈評者〉横山ゆずり



聖書からの贈り物
祝福・励まし・慰めの聖句集
丹治めぐみ、左近豊編



「聖書からの贈り物」。思わずこの言葉に目が留まりました。「贈り物」という言葉に魅かれたからです。「これはあなたへの贈り物」と言われれば、期待をこめて手に取ってみたくなります。そんな魅力的な題がつけられたこの一冊から贈られてくるのは何でしょうか。

贈り物には贈る側と受け取る側がいますが、編者のお一人である丹治めぐみさんは、まずこの本を手にとる読み手が「聖書からの贈り物」を受け取ることを願っています。読み手が贈り手になる前に聖書の言葉によって助けられること、必要な言葉と出会うための聖句集だと語ります。確かにこの本を読み始めると、聖書からの贈り物を最初に受け取るのは（わたし）なのだということに気づきます。

この聖句集は贈り手がふさわしい聖句を選ぶことができよう願って編まれ、「人生の節目やさまざまなシチュエー

ション別に選ぶときに役立つ聖句集」です。「祝福」「励まし」「慰め」を各章とし、さらに章ごとにショートメッセージがあるのも特筆すべき点です。実はこのメッセージには、聖句を通して「祝福」「励まし」「慰め」を贈ろうとする者の心を柔らかく深く耕す言葉がちりばめられており、聖句のもつ豊かさへとつながります。これも贈り物です。

三つの章それぞれには贈り先をより具体的に思い描けるよう言葉が添えられているのも助かります。たとえば「励ましをおくる」の項目「就職・転職」では「大海へ漕ぎ出す人へ」、「送別・退職」は「新たな道を行く人へ」と。大きな転機にある相手をよりイメージしやすい工夫です。

そして最後の章「慰めをおくる」では、特に「不安」と「苦難・試練」の項目が他に抜きん出て聖句数が多く、旧約聖書からの引用が多いことに気づかされます。旧約聖書

学専門の編者左近豊牧師が言われる聖書そのものが「旧約聖書以来数千年にわたって、人々の波乱に満ちた生活や人生の紆余曲折、社会の栄枯盛衰……馴染みない環境に漂うことを余儀なくされた中で紡ぎ出され、編み上げられてきた言葉が刻まれて」おり、「喜びも悲しみも、健やかなときも病むときも、……思いを言葉にし、……大事に受け渡してきた……宝箱」だからこそ、「慰めをおくる」場面においてその本領が発揮されるのです。

本書中の聖句は約280ですが、編者お二人が膨大な聖句から言葉を選ぶ作業には苦勞なさったのではないでしょうか。選ばれた聖句が「文脈から切り離され」、それでもなお短い言葉が本来の意味たり得るのかという心配を受けとめつつ、祈りをもって選り出された聖書の言葉を、左近

神学ダイジェスト138号

急速な変化を遂げる現代社会。その中にある、多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

2025年6月発行
A5版128頁
定価638円（税込）

特集 カトリック教会における男性性

巻頭言 教会における公正な人
聖職者の独身制と性
男性性を再構築する神学
教会の中の男性性と性虐待
男性のための霊的同伴
司祭職を廃止せよ
ブーチンとロシア正教会のイデオロギー
日本の教会の女性感覚と男女協働
ルカ福音書のたとえ話における内的独白

酒井 陽介

L・ポフ

H・アンダーソン

J・H・ルビオ

D・ピソ

J・キャロル

N・デニセンコ

石川 治子

P・セル

上智大学神学会

神学ダイジェスト編集委員会

東京都練馬区上石神井4-32-11
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

牧師は「あたかも岬に立つ灯台に例えて」おられます。人の歩みが人生という海原に漕ぎ出す舟であり、「（み言葉は）私の足の灯 私の道の光」（詩編119・105）とあるように、その船舶と船乗りたちを導く光に例えておられます。最後に「誰かの心の片隅に刻まれて、いつの日か、……プレゼントになる言葉」を届けるため、聖句を携え受け渡す日に備えたいものです。「この聖句はあの人に」と隣人に思いを馳せる時が与えられたからです。聖書の言葉が隣人を指し示す光であることをあらためて教えられました。この本を手にとってくださる方が贈り物である聖書の言葉とたくさん出会えますようにと心から願ってやみません。

（よこやま・ゆずり 半田教会牧師、全国教会婦人会連合中央委員）
（四六判・一一二頁・定価一三四〇円・日本キリスト教団出版局）

聖書を読み慣れた人にも これから読もうとする人にも

〈評者〉石丸昌彦



はじめてのヨハネ福音書
棟居 正著



『はじめてのマルコ福音書』の著者が、ヨハネ福音書に取り組みました。前著と同様、福音書全体を、聖書の小見出しごとに、丁寧にわかりやすく説き明かしていきます。

本書を書いた理由がまぎに記されています。

「ヨハネによる福音書は他の福音書と比べても、特に『イエスをキリストと信じるというのはどういうことなのか』をはっきり伝えてるように思うのです。」

さらに、こうも書かれています。

「書き出しからして、この書は他と違っています。マタイとルカにはみなさんご存じのクリスマス物語があります。(これに対してヨハネによる福音書では)クリスマスのお出でよりもさらにさかのぼって、イエスさまの存在が捉えられています。イエスさまを『神さまによってこの世に遣わされた存在』として見ているのです。」

ああ、そうだった、と天を仰ぐ気持ちになりました。

ヨハネによる福音書には、この福音書だけが伝える印象的な場面が数多くあります。カナの婚宴の奇跡、サマリアの女との謎かけのような問答、ラザロの復活、トマスと復活の主との出会いなど、きりがありません。

いずれも聖書の読者にはよく知られた場面ですが、各々のインパクトが強いだけに、とすればバラバラに記憶され、つながりを見失うことも起きがちでしょう。しかし本当はそれらのつながりこそ大事なのであり、つながりを見失ったら聖書の本質をも見失ってしまいます。

つながりを生み出すのは「イエスはキリストである」という単純で力強い究極のメッセージです。この根本をいっもしつかり心にとめておくこと、それは聖書を読み慣れた人々が折りに触れて立ち返るべき原点であり、これから聖

書を読もうとする人々が迷路に入り込まないための何よりの指針であることを、本書は繰り返し教えています。

本書の著者は若い頃から90歳を超える現在まで、長年わたって教会学校で子どもたちに語り続けてきました。その話が実に巧みであることを、周囲の人々はよく知っています。「話が巧み」などという言い方は、かえって失礼かもしれません。話題の選択、話の運び、よく通る声と明晰な発音など、話し手に求められる条件を全て備えていたのは事実ですが、何より著者の語りは「イエスが主であることを証しする」という目的にぴたりと照準を合わせ、かつしてそこから逸れることがありませんでした。著者自身が、イエスを主と仰ぐ生活を日々心がけてきた証拠でしょう。

教会学校教師の後輩として、著者の話を毎週聞き続けて

きた幸運な私には、本書の行間から張りのある著者の声が響いてくるような気がします。とりわけこのくだりです。

「お願いしたいのは、この本をお読みになって、聖書を読んだということにしないでいただきたいということです。この本は手引きのようなものです。ぜひ本物の聖書をお読みになり、そこから神の声をあなたご自身で聴き取っていただきたいのです。」(まえがきより)

この一言に著者の祈りと願いが集約されています。聖書の隣に本書を置き、時々ページをめくってみてください。

「ああ、そうだった」という新鮮な気づきや、ヨハネによる福音書の真価を確かめさせてくれるに違いありません。

(いしまる・まさひこ 精神科医)

(A5判・一四四頁・定価二二〇〇円・日本キリスト教団出版局)



イエスに出会った人びと

説教集

山本清*著



イエスとのさまざまな出合いを網羅的に取り上げている。四つの福音書には並行記事も多いがその代表的なものを、さらに使徒言行録のパウロとの出合いを取り上げている。

A5判・並製本

- (上) 定価 3,300 [本体 3,000 + 税] 円
ISBN978-4-86325-161-8
- (中) 定価 3,520 [本体 3,200 + 税] 円
ISBN978-4-86325-162-5
- (下) 定価 3,740 [本体 3,400 + 税] 円
ISBN978-4-86325-163-2



株式会社 一麦出版社

札幌市南区北ノ沢3丁目4-10

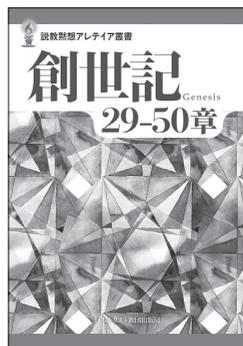
TEL (011) 578-5888

<http://www.ichibaku.co.jp>

携帯 mobile.ichibaku.co.jp

分断世界における 信仰リアル・ストーリー

〈評者〉宮崎 誉



説教黙想アレティア叢書

創世記29―50章

日本キリスト教団出版局編



日本の多くの教派の牧師たちに、礼拝説教の備えとして愛読されているシリーズに創世記後半が加わりました。

礼拝での説教箇所として創世記をシリーズで用いることは珍しいことと思います。それは、礼拝で聴く説教が、主イエス・キリストの福音として聞かれる目的があり、つまり受肉された主イエスが登場する新約聖書を聖書テキストとする方が、どうしても自然になるからです（本書24頁）。しかし、それゆえにあえて旧約聖書からの講解にチャレンジすることはとても貴重で、意義深く感じます。そして、何といても創世記は面白い！そこからアピールする説教を紡ぎ出そうと生みの苦しみをする牧師たちの思索は、魅力的で引き込まれる味わい深さに溢れています。

黙想では、創世記の後半の物語の主要な設定を「争い」の視点で位置付けています（6頁）。登場人物はアブラハム、

イサク、ヤコブという信仰の民の族長物語ですが、旧約聖書学者のブルゲマンの視点を借りるならば、「争い」をコンテキストとした「嘆き」に人間のリアリティが現れていると言えます。ヤコブとエサウ兄弟に騙し合いが起き、妻たちは競争心に駆られ、そして、ヤコブの息子たちは若いヨセフを妬み、奴隸として売り飛ばすという悲劇が起きます。神の民らしくない痛ましい家族像で、神礼拝の場で語られるのにふさわしくないようにも感じるのですが、しかし、むしろそのようなリアルな泥沼の分断の中で、それでもなお神の恵みと和解が備えられているということに、引き込まれていきます。争いの苦しみの中で、人はうめき祈り、天よりの御声に導かれていくのです。

このような信仰の姿をあらわす祈りの手引きが、二段階の祈りとして紹介されています（22～23頁）。①祈りとは、

悲惨な世界から目を天に向けること、そして、②「キリストの目をもってこの世に目を注ぐこと」(カトリック司祭ミシェル・クオスト)。まさしく、これこそ族長たちが荒野で経験した信仰のレッスンだったと感じます。使徒パウロもまた族長の信仰をこう言い表しています。「望み得ないのに、なおも望みつづ信じた」(ローマ4・18、口語訳)。

この「争い」は現代の差し迫った課題です。共生を求めた理想が崩れ、こんなにも「紛争」が激化する時代を迎えています。また、「争い」は「分断」とも言い換えられるでしょう。国内内で分断しているのに、自国第一主義を掲げて世界中に分断を広げ続けている悲しい世界情勢を、私たちは痛みを感じつつ目撃しています。いえもつと身近に、信仰理解や人権意識という大切なテーマの理解の差異に

ヨベルの 新刊案内



壊れた世界のただ中で回復の礎に。奇跡と癒やしの記事に満ちた福音書。しかしイエスはスーパーパワーの超人としてではなく、壊れてしまったこの世界のただ中に立ち、神の秩序へと回復するために身体ははって駆ける行動人として、描かれた。丁寧に読み解きその息吹を今に伝える熱血の第2弾!

大頭眞一「炎き火を囲んで聴く神の物語・新約聖書説教」**マルコの福音書Ⅱ** 新書判・二八二頁・一六五〇円

わたしを誰と呼ぶか



結婚・家族・児童および、悲嘆・トラウマのクリスチャンカウンセラーとしてアメリカで30年以上のキャリアを持つ著者が、人生の静かなる同伴者とも言うべき「悲しみ」について語る。それを否認・排除することをやめ、道連れとして共に旅するように生きることへと勇気を与えてくれる珠玉の25章。

新書判・三六頁・二二〇円

悲しみを道連れに生きる25のヒント

H・ノーマン・ライト [著]
前島常郎 [訳]

よって、教会に分断が生じてしまっています。創世記32章28節では、ヤコブは「あなたは何者か?」と問われます。そして、「ヤコブ(押しつける者/争う人)です」と答えたことは、ヤコブの罪の告白(58頁)であり、心碎かれた者がキリストの恵みに生かされている自己を発見できるのです。争いうめく私たちの罪深い自己存在が神に問われる姿を、創世記は描き出します。まさにそこに与えられる神の恵みのリアリティがあるのです。この説教黙想を通して読者は、自己を福音によって受け止め直すきっかけを得られるでしょう。はじめての方もぜひ手にとって、黙想に浸っていただきたいと願います。

(みやざき・ほまれ) 東京聖書学院准教授、日本ホーリネス教団鳩山のぞみ教会牧師

(A5判・二二六頁・定価三五二〇円・日本キリスト教団出版局)

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

現代に呼びかける神の言葉の響き

〈評者〉 荒井 仁



神と民の契約
松本敏之著



鹿児島高加治屋町教会の牧師として2022年から24年の間に説教をした原稿をもとに本書はまとめられている。既刊の説教集『神の民の解放』で出エジプト記1章から18章を扱ったが、本書はその続きとして19章から40章までと申命記32章を取り上げる。24編中、十戒についての説教が11編収められている。律法が記された箇所も概略を分かりやすく紹介している。

説教集全休を読んだ第一印象として、出エジプト記の物語や律法を取り扱いながら、現代の問題と結びつけているので、神の言葉が現代に呼びかける響きを聞く思いがする。例えば「8 生命」は第六戒の「殺してはならない」を扱っているが、殺戮、憎しみなどと結びつけるだけではない。社会構造的な罪にまで踏み込んでいる。「例えばアメリカや日本が豊かな生活を享受するために石油を確保するこ

とと中東の戦争は無関係ではありません。利権争いに巻き込まれ、そのような戦争の犠牲になっている多くの人は、現地に住む、貧しい人や弱い立場の人なのです」。日本に住む私たちが日常生活を送る中に潜む罪を思い起こさせてくれる。同じ説教で「妊娠中絶」にも触れるが、その際、胎内に宿った時から一つの命であるので、自由に殺しても良いというのは人間の傲慢であると言いつける一方で、「妊娠中絶を考えざるをえないような状況、母親を追い込んでいく社会構造の問題」を考える社会の責任を問うている。

二つ目に印象に残ったこととして、歴史との関係がある。説教の中でしばしば「ハイデルベルク信仰問答」が引用されている。筆者も以前には目を通したことがあるが、松本先生の取り上げ方は聖句の意味が理解しやすいように用いている。「10 所有」で第八戒の「盗んではならない」の

意味を広く解釈するために、信仰問答に記された「神の賜物の不必要な浪費」を取り上げる。現代の日本に生きる私たちには耳の痛い解釈である。またナチス・ドイツの問題とディートリッヒ・ボンヘッファーにしばしば言及する。「偽証してはならない」についての説教である「11 真実」で、ボンヘッファーが、先生と一人の児童の話をしたことを紹介する。「君のお父さんは、酔っぱらってうちに帰って来ることが多いというのは本当かね」と先生に問われて、この児童は「ぼくのお父さんはそんな人間ではありません」と答えた。この嘘は事実即した言葉ではないが、事実即した言葉よりも真実だとボンヘッファーが述べている。これを受けてボンヘッファーの置かれた状況を説明しながら、「私たちはそこで神様に対して真実であること、

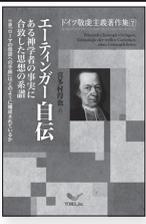
ヨベルの本予約と重版

「何冊も」ローマの国史の手紙
はどのよ様に編み込まれているのか

エーティンガー「著」喜多村得也「訳」

自伝 ある神学者の事実に合致した思想の系譜 * 七月末刊行 二二二〇円

自伝の白眉登場！ モラヴィア兄弟団を主導したツィンツェンドルフ伯爵、ユダヤ人カバラ学者コッペル・ヘヒト、視霊者スウェーデンボルクをはじめ、あまたの思想家との直截で物怖じしない交遊を通じて思索を重ね、次第に独自の神学へと到達し、最後には無邪気な子供のようになって生涯を閉じたといわれるエーティンガーによる自伝。



隣人に対して真実であることを貫いて、言葉を選ばなければならぬのです」と、守るべき者を守る姿勢の大切さを示す。

松本先生はいつも笑顔で人と接しておられ、腹話術で楽しませユーモアのセンスもある。その一端が「21 再生」にも垣間見られる。モーセが神と会って神の栄光を受け顔が輝いていたときの描写である。「光をいっぱい受けて、その光が去った後も、まだ光が残っていたのです。ちよつと夜光塗料のような感じもします」。「夜光塗料」の4文字に思わず笑いがこぼれた。入門の書としてもぜひ、勧めたい一冊である。

AG判・四五二頁・一〇八〇円

違いがありつつ、鈴木道也「著」

ひとつ 試論「十全のイエス・キリスト」へ

ひとに結び合わされ、初めて見えてくる聖書の原聲！

大貫 隆先生推奨・論述が平静かつ公平、先行研究からの引用は常に正確かつ肯定的で、自説の中へ統合する姿勢。無益に論争的なところがなく建設的。文体は一般読者向けで分かりやすい。図は明快で読者の理解を大いに助ける。

重版！

大貫 隆先生推奨！

試論「十全のイエス・キリスト」へ

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

信仰の意味を再確認させる 適切な道案内

〈評者〉
阿部仲麻呂



金子晴勇 著
キリスト教思想史の例話集Ⅱ
命題集
金子晴勇 著



『命題集』と言えば、12世紀のペトルス・ロンバルドゥスという名前が即座に浮かびます。彼は①古代から中世期に至る地中海世界のキリスト教関連の写本を洗いざらい調査し、蒐集し、すべて読み深めたうえで、②その後で「司祭職を目指す者たちの学習の便宜」を考慮して秩序正しく段階的に哲学と神学の基礎が身につくような教科書を編纂しました。つまり①キリスト教信仰に関するあらゆる記録を整えて神学の重要な理論的な骨組みを再編成してから、②相手に理解し易いように物語る教科書は西洋中世キリスト教世界観を成立させる標準的な土台となりました。13世紀のキリスト教思想黄金時代の聖トマス・アキナスもまたロンバルドゥスの教科書で勉強して、その後も『命題集』講師として段階的にパリ大学の教授職の階段を昇ったのでした。聖トマスによる『神学大全』もまたロンバル

ドゥスの『命題集』を基礎として生まれた作品でした。

金子晴勇先生はロンバルドゥスの二つの工夫（右の①と②）の精神を継承して現代の『命題集』を刊行しました。ロンバルドゥスの二つの工夫に魅せられて、評者もまた①洋の東西のあらゆる文献に目をとおしてから、②学生たち個々の状況に合わせて順序正しく物語る日々を過ごしますが、教科書を作成する決意をするだけで幾星霜の歳月が無駄に流れました。

しかし評者は今回勇気づけられました。金子先生が着実に理想的な信仰の教科書を完成させたからです。聖トマスや聖ボナヴェントゥラなどの有為な神学者たちを多数育てる教科書を作成したロンバルドゥスの精神性が日本でも花開きました。ヨーロッパ近世以降、人間中心主義の思潮が勃興してキリスト教的な世界観が脇に追いやられてからと

いもうもの『命題集』の精神の継承が途絶えました。金子先生はロンバルドゥスの精神を的確に把握してから現代の生活状況も踏まえて構築し直しました。こうして古代から現代に至る新たな『命題集』が完成しました。

本書の構成は見事です。「第一部 人間学的命題集」で哲学的な内容を究め、「第二部 神学的命題集」で神学的な内容を究め、日本の一般読者が取り組みやすい順番を設定するとともにヨーロッパの学習課程としての哲学から神学の学びへとという階梯をも踏まえたからです。人間として生きるこの意味を問う哲学を理解してから、人間を超える創造主としての神を探究する神学の思考法を身に着ける段階的な導きは鮮やかです。こうして本書が信仰の意味を再確認させる適切な道案内を実現します。



増補改訂版
新約聖書の本文研究 伝達・改悪・回復
B・M・メツガー／B・D・アーマン 橋本滋男／前川裕 訳

私たちが手にする新約聖書の本文は、どのように現在の形となったのか。本文の元となる写本や本文批評について、最新の研究を踏まえて解説する。原著第4版より訳出。
A5判上製・448頁・定価6600円



説教黙想アレティア叢書 日本キリスト教団出版局 編
創世記 29-50章

創世記の重要単元の説教黙想集。下巻はヤコブのハラシ到着から故郷への帰還、ヨセフ物語の大団円までと、大島力師の論考「創世記の説教」を再録。
A5判並製・236頁・定価3520円

本書をよく読むと、実は金子先生の若き日からの研究成果が全部とり込まれており、75年以上の研究遍歴あるいは思想構築の順序が浮かび上がります。その意味で、本書そのものが履歴書であり、個人の学問研鑽が人類全体の哲学および神学の学びの成熟過程とも重なることが興味深いです。まさに成長する個々人の動向と、個々人が相互協力して創り上げる人類共同体文化の動向とが連動します。そこそがキリスト教思想史を描き切った碩学の金子先生の独自性です。つまりキリスト者の共同体を大局的な視点から眺める鷹揚さと、各地の生活に密着して生きる個々人への細やかな慈愛深さとを両立させる複眼的な思索を今日も紡ぐ知の巨人の謙虚さを金子先生が輝かせます。

(あべ・なかまろ 日本カトリック神学院教授
新書判・三三六頁・定価一五四〇円・ヨベル)

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)
<https://bp-uccj.jp>

信徒によるインタビューを 交えた出色のメッセージ集

〈評者〉 山口陽一

カンバールランド長老キリスト教会高座教会は、二〇二〇年に『イエスを見つめながら——カンバールランド長老キリスト教会高座教会七〇年史』（新教出版社）を刊行しました。本書は、この教会を三七年間牧会された松本雅弘牧師の退任を記念して発行されました。第一部「信仰へのメッセージ」は、ヨハネの福音書から主イエスとの出会いを取り上げた四つの洗礼・入会準備会テキストです。第二部「信仰からのメッセージ」には、赴任後最初の説教に始まり、三大節の説教や生島睦伸牧師の葬礼拝説教など一〇編が収録されています。第三部「キリストの教会を形成する」には、神学論文や雑誌記事など七編が収められています。

本書の特徴は各部冒頭の牧師へのインタビューです。教員でありNHKディレクターとして「宗教の時間」「日本史探訪」などの制作にあたった大正大学名誉教授鈴木健



自分自身と群れ全体と
に気を配りながら
メッセージ集
松本雅弘著



次氏の問いかけは、ありきたりではありません。「信仰へのメッセージ」と「信仰からのメッセージ」という分け方も鈴木氏の提案とのことです。同氏は第一部について、「クリスチャンであろうとなかろうと多くの人が生活の場で直面する悩みを取り上げ、その癒しの糸口になるような話に始まって、回を重ねるとともに贖罪論などキリスト教の中心的な信仰が説かれる」ところに牧師の工夫を見てとります。それに対して松本牧師は、生島前牧師のカリスマにより成長した教会がカンバールランド長老教会の信仰告白に基づいた教会形成にパラダイムシフトし、新来者と教員の双方のために伝道と牧会のバランスを考えて説教してきたと語ります。陪餐の資格を巡ってのやり取りは、伝道と牧会の双方をめざす牧師の姿勢をよく表しています。

第二部のインタビューで鈴木氏は言います。「『信仰から

の『説教が主体となる主日共同礼拝の説教も、その背後には説教に至るまでの、『信仰への』牧師自身の迷いとか悩みが存在しているのではないかと推察しています。実は本書の編集にあたって、そうした舞台裏のお話を説教と説教のあいだに挟み込むことができないかと考えてこのインタビューを試みているわけです。(中略)狙いが成功すればあまり例のない立体的な説教集になると考えたのです。鈴木氏は説教を聴く立場から、松本牧師の天地創造理解、神学の発展性、使徒信条を唱える意味、神の主権と人間の自由、イエスの贖罪死の理解について問いを重ねます。松本牧師はこれに誠実に答えています。ヘンリ・ナウエンが、主イエスのパンを裂く所作「取る、祝福する、裂く、与える」にキリストの生涯とクリスチャンの生き方を読み取ったことにふれ、松本牧師は言います。「牧会者としてたいへんな出来事に遭遇して私自身が苦しんでいるとき、辛く

悲しむとき、もしかしたら教会員や周囲の人々からは、いちばん食べやすい大きさに砕かれているときだったかもしれないと、思い当たる節があるのです」。鈴木氏はさらに、教会の成長とはと問い、イスラエルがガザを侵攻する世界でイスラエルのカナン征服を語るだけではないのかと切り込みます。まさに、生き生きと「立体的な説教集」が編まれています。

第三部には、松本牧師の論文「カンバーランド長老教会神学史における贖罪論の変遷に関する一考察」や、黙想をめぐる珠玉のエッセイがあります。

本書は説教者と聞き手が編んだ稀有な説教集であり、『高座教会七〇年史』と併せて読まれることをお勧めします。

(やまぐち・よういち 東京基督教大学特別教授
(A5判・三二〇頁・定価二二〇〇円・新教出版社)

連帯を生み出す 祈りとしての宣言

〈評者〉澤 正幸

本書の出版に込められた願いは解説の最後に記されている。重要なことは、すでに『戦争の時代』に突入しているわ

たしたちが、教団・教派を超えて、この国と世界に『平和をつくる』ために協働する道を模索することです。度重なる災害経験の中で、今や全国や地域における超教派の災害支援ネットワークができてつつあります。これは本当に素晴らしい恵みだと感謝しています。……そうであれば、わたしたち日本に置かれている教会が、今後、様々な形で『平和をつくる』ために協働することも可能なのではないのでしょうか。日本の教会は、いずれも弱く無力かもしれませんが、それでも主の『平和』の完成の日に至るまで、祈りを合わせて、この世界にある困難な諸課題に取り組んで行くきたく願うのです。』

平和の福音に生きる教会の宣言
日本キリスト改革派教会「平和宣言」と解説



吉田 隆、長谷部弘、弓矢健児、豊川 慎 (著)

基督教出版社

平和の福音に生きる 教会の宣言

日本キリスト改革派教会「平和宣言」と解説

吉田隆、長谷部弘、弓矢健児、
豊川 慎著



日本キリスト改革派教会は二〇二三年の第78回定期大会で「平和宣言」を採択しました。この宣言が一教派の中にとどまらず、日本のキリスト教界全体に向かって「平和の福音に生きる教会の宣言」として出版されるのは、教団・教派を超えて、この国と世界に『平和をつくる』ための協働と連帯が生まれる願いを込めてのことだと思えます。

日本キリスト改革派教会が今日の状況において「平和宣言」を採択した理由は、ウクライナ戦争勃発以来、東アジアの軍事的緊張が高まり、戦争をめぐる国内世論が変化する中で、教会が自らに託されている「平和の福音」を発信することによって、平和運動と連帯しながら日本と世界の「平和をつくる」教会の使命を自覚してのことでした。

「平和宣言」はしっかりとした聖書的・神学的基礎に立ちつつ、平和を作り出すための実践としての愛の業（デイ

アコニア」と平和のための協働と連帯という展望を示します。「キリストにある神の子らの一致こそ、この世における最も鮮やかな神の平和の証」という言葉など、分断している世界に生きているわたしたちに悔い改めとともに希望を与える言葉だと思いました。

スローガンで終わる危険がなくもない「平和宣言」ですが、この宣言は日本キリスト改革派教会の「教育的伝道」を重んじる伝統に連なる「平和教育」のテキストと言えるでしょう。宣言文とその解説の学びは、次世代との協働と連帯を生み出すに違いありません。

戦後八〇年の節目に出される平和宣言の歴史認識に注目させられます。過去の戦争において、日本の教会が神と人々の前で平和の福音に生きる教会としての責任と使命を果たせなかった反省を踏まえつつ、今の教会は将来に向けて、過去の失敗を克服し平和を作り出そうと決意している

のかとの問いかけです。かかる自己反省をするとき、教会が立ち返るべき原点は何かを指し示して、平和宣言は締め括られます。

「平和を作り出すという困難な働きや運動に携わっていると、知らず知らずのうちに、この世の力の前に身も心も擦り減って疲れてしまうことがあります。絶望的な思いにされることさえあります。ですから、いつでも原点に立ち返ることが必要です。」

平和を作り出す戦いは究極的には霊的戦いであり、立ち返るべき原点は、神の平和、すでに勝利しておられる主の平安と喜びが、礼拝を通して保たれることだと言われます。それゆえ、平和宣言は祈りなのです。

(さわ・まさゆき 日本キリスト教会教師)

(小B6判・一一九頁・定価九九〇円・新教出版社)

■キリスト新聞社

トロイカ人生に導かれて

—— 黒川知文自伝

黒川知文著

教育者として、牧会者として生きた著者が、若くして神と出会い、神からの使命を自覚するに至るまでの歩みを、さまざまな一次資料から客観的にふり返る。

四六判・290頁・定価1870円

■日本キリスト教団出版局

バルトによる説教論

—— 聖霊に導かれる説教黙想とは何か

上田光正著

名説教者としても知られたカール・バルトに学ぶ、真に「キリストを語る」説教に必要な神学と、聖書の使信を正しく聴き取るための「追思考」(説教黙想)の実践。

A5判・184頁・定価3080円

イザヤ書を読む

下 慰めよ、私の民を

大島 力著

捕囚の絶望の民に慰めを語る第二イザヤ(イザヤ書40~55章)、祖国に帰還した民に希望を指し示す第三イザヤ(56~66章)を、旧約聖書に精通する著者が読み解く。

四六判・208頁・定価2640円

■新教出版社

イザヤ書註解Ⅱ

—— 11章—27章

ジャン・カルヴァン著 堀江知己訳

イザヤ書註解は、一五五一年に出版された、カルヴァンの初めての旧約聖書註解である。詩篇註解に比肩する膨大な分量であり、邦訳では全五巻となる予定。改革者がヘブライ語の深い知識に基づいて、どれほど真剣に預言書に取り組んだが如実に伝わってくる。

A5判・615頁・予価7000円

INFORMATION

近刊情報

■教文館

カルヴェニズム

A・カイパー著 日本カルヴェニスト協会訳

キリスト教を、人間の内面や教会や神学の問題としてだけでなく、政治・科学・芸術を含めた被造世界の全領域に関わるものとして捉える必要を訴えた歴史的名著。

四六判・300頁・定価2860円

あしたは必ず来る

—— 明治から現代までのファミリーヒストリーを辿りつつ

湊 晶子著

国際基督教大学、東京基督教大学、東京女子大学、広島女学院大学で、キリスト教人格教育に従事してきた著者のファミリーヒストリー。五代目キリスト者が贈る希望のメッセージ。

A5判・98頁・1100円

ハイデルベルク信仰問答講話

加藤常昭著

宗教改革の戦いの中から生まれ、教派的枠組みも歴史的制約も越えて広く読み継がれ、現代人の魂に深く訴えるハイデルベルク信仰問答。その問答を日本人の魂の奥深く訴える美しい言葉で説き明かし、読み継がれてきた名著の合本化。

B6判・560頁・定価4950円

世界の秘密としての神

—— 有神論と無神論の論争における、十字架にかけられた

お方の神学の基礎付けのために

E・ユンゲル著 佐々木勝彦訳

20世紀を代表する神学者ユンゲルの名著の待望の翻訳！現代において神について考え、語ることの神学的基礎を構築した古典的名著。

A5判・736頁・定価14080円

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zeninkan_systen_0530@yahoo.co.jp	02350-0-874
エッセイの木	980-0012	仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ1F	022-223-2736	022-302-6678	https://essainoki.jp/	shop@essainoki.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区新館3-2 千葉カリアセンタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vestia.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
待星堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taishindo-books.jimbo.com/	taishindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス東京	169-0051	新都区早稲田3-18(A/C0ビル2F 通称専門)	03-3203-4137	03-3203-4186	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	112-0014	文京区口1-44(原宿ロビル)日本橋内(外販専門)	03-3260-5663	03-3260-5637	tokyo@nikkihan.co.jp		00130-3-60976
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.tuighte.net/~yokohama-us/index.html	sksch@mvva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	466-0045	名古屋市中区大須町16 日教キリスト教団 教務部内	052-680-8090	052-680-8091	http://nagoya-seibunsha.la.cococan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
バイブルハウス京都	606-0007	京都市左京区岩倉東五丁目23 日本基督教団平安教会内	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kiJordan/	kiJordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
バイブルハウス堺	591-8023	堺市北区中百舌島町2-87 チャペルこつり2F	072-255-4970				
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osekacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店(聖燈社)	591-8044	大阪府堺市北区中長尾町2丁1-18	072-254-2233	共用		sekaixx@outlook.jp	00970-0-172228
神戸キリスト教書店	650-0025	神戸市中央区船生町4-5-12 神戸駅前ビル401	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkihan.co.jp	00170-2-421390
広聖聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道/西13	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwbtf3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/matsuyama_1007/mbs.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花4丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacts.net	info@okinawacts.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は 日キ販販売部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

福音と世界

2025年7月号

特集Ⅱ ジェンダー・宗教・現代日本

寄稿者Ⅱ 上原麻有子、神山美奈子、朝香知己、山口瑞穂、谷口愛沙、松田舞

短期連載 わたしたちキリスト者は天皇制をどう考えるべきか (石田学)

連載 ほやき牧師のさすらい説教録 (富田正樹) / 異端者の世界航海 (福岡揚) / 証言としての旧約聖書 (田島卓) / 新約釈義 ルカ福音書 (山崎ランサム和彦)、八木重吉の聖書 (今高義也) 他

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148
Email: sales@shinkyu-pb.com

編集室から

は約52万人に上るといふ。

すでに入院して体調が危ぶまれていた教皇フランシスコの訃報と、その後に行われたホンモノの教皇選挙に関する報道が、観客動員に拍車をかけることになった。

日本人枢機卿としてコンクラーベに参加した菊地功大司教は、自身のブログでその内幕について（公にできる範囲で）報告。3月にローマを訪れた際の機内で映画『教皇選挙』を鑑賞したことも明かした。

教皇の死去から次の教皇を選ぶまでの過程をミステリー仕立てで描いた映画『教皇選挙』の勢いが止まらない。3月20日の公開以来、50日目で興収8億円超を記録。配給会社によると、5月上旬の時点で動員累計

予告

本のひろば

2025年8月号

本・批評と紹介

（書評）高橋洋成著『イエスの言語』をめぐる論争史』、兼子盾夫著『遠藤周作の生涯と文学』、山本賢蔵著『静寂者ジャンヌ』、島田恒著『生涯現役が贈る人生の道標（みちしるべ）』、本多峰子著『イエスとの出会いと救い』 他

「ストーリーはちよつと荒唐無稽だと思えます、明らかに現実的ではないフィクションですし、実際にバチカンで撮影しているのでもないもので、いろいろと実際とは異なるところがありますが、よくできた映像だと思えます」とし、映画の公開を通じ、「本当の教皇選挙に注目して頂けた部分も多くあろう」と評価した。

一方で、実際には同作で描かれるような「生臭い話は、残念ながらフィクション」で、食事の席では互いに自国の教会について教え合ったり、「和気あいあい」としていたことも紹介している。

プロテスタント教会にとつては縁遠い一連の話題だが、かようなタイミングとアプローチさえあれば、キリスト教になじみの薄い日本人の琴線にも触れられると証明した現象として、記憶に留めておきたい。（松谷）

イザヤ書を読もう▽
慰めよ、私の民を

大島力



イザヤ書を読もう 下

慰めよ、私の民を 大島力

捕囚の絶望の民に慰めを語る第二イザヤ(40～55章)、祖国に帰還した民に希望を指し示す第三イザヤ(56～66章)。暗い時代に輝く福音を、イザヤ書の専門家であり、熟練の説教者である著者が読み解く。イザヤ書通読のための必携書、完結!

2025年6月25日刊行予定

◆四六判 並製・208頁・定価2,640円

聖書を読む人の同伴者「読もう」シリーズ 好評発売中

『ヨブ記を読もう』 並木浩一 定価2,640円

『詩編を読もう』 全2巻 広田叔弘 上巻定価2,640円 下巻定価2,200円

『コヘレトの言葉を読もう』 小友 聡 定価1,540円

『イザヤ書を読もう 上』 大島力 定価2,640円

『エレミヤ書を読もう』 左近 豊 定価1,540円

『マタイ福音書を読もう』 全3巻 松本敏之 1巻・2巻定価1,980円 3巻定価1,760円

『マルコ福音書を読もう』 増田 琴 定価2,640円

『ルカ福音書を読もう』 全2巻 及川 信 上・下巻定価2,860円

『ヨハネ福音書を読もう』 全2巻 松本敏之 上・下巻定価2,640円

『使徒言行録を読もう』 川崎公平 定価2,750円

『ガラテヤの信徒への手紙を読もう』 船本弘毅 定価1,650円

『ペトロの手紙を読もう』 井ノ川勝 定価2,420円

『ヨハネの黙示録を読もう』(オンデマンド版) 村上伸 定価2,750円

バルトによる説教論

聖霊に導かれる説教黙想とは何か

上田光正

2025年6月20日刊行予定

カール・バルトの『教会教義学』『神の言葉』と、ボン大学での説教演習記録から、真に「キリストを語る」説教に必要な神学、そして聖書のメッセージを正しく聴き取るための「追思考」(説教黙想)の実践を学ぶ。

◆A5判 並製・184頁・定価3,080円



好評発売中 『カール・バルト入門 —21世紀に和解を語る神学』 上田光正 定価2,640円

あしたは必ず来る

湊晶子



明治から現代までの
フアミリーヒストリーを辿りつつ

国際基督教大学、東京基督教大学、東京女子大学、広島女学院大学で、キリスト教人格教育に従事してきて著者のフアミリーヒストリー。五代目キリスト者が贈る希望のメッセージ。

目次

- 第1章 戦前・戦中・戦後を生きて
- 第2章 明治・大正・昭和をキリスト者として生きた家族たち
- 第3章 激動の92年間を生きて——いま、書き残したいこと

●A5判・112頁・定価1,100円

6月の新刊 ●価格表示は税込

有神論的世界観の
確立のために



カルヴェイニズム

A・カイパー
日本カルヴェイニスト協会「訳

「カルヴェイニズム」という用語を、従来の神学的・教派的用語に限定せず、政治・科学・芸術を含めた人間の生の全領域に関わる「世界観」として展開したアブラハム・カイパー。1898年に米國プリンストン神学校の「ストーン講義」で語った記念碑的講演。

●四六判・300頁・定価2,860円

5月刊行の好評既刊!

ゴッホの宇宙

正田倫顕



観る者の魂を揺さぶる強烈なエネルギー——ゴッホを独特の絵画表現へと駆り立てたものは一体何だったのか? ゴッホを宗教的人間として捉え、作品と手紙の手堅い分析からその絵に示された世界観を解き明かす。画家ゴッホの深層に迫る、ダイナミックで犀利な思索!

●A5判・232頁+口絵48頁・定価3,080円

6月の重版!

片柳弘史

日々を生きる力

あなたを励ます聖書の言葉366

●A6判・390頁・定価990円



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
電話 03-3561-5549 (出版部直通) 《呈・図書目録》

キリスト教の書籍やCD、グッズのご注文は (e-shop 教文館)
<http://shop-kyobunkwan.com/> まで!



本のひろば.com



一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
二〇一五年七月一日発行 (毎月一回一日発行)
本のひろば 第八一十一号 二〇一五年七月号

発行所 〒112-0014 東京都文京区関口「一四四」四一 一般財団法人キリスト教文書センター
電話03-3361-6520 振替00170-511679
発行人 金子和人 編集人 村上信児 印刷所 モリモト印刷
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話03-3361-5670

定価七八円 (税抜七一円) (〒63円)
一年分二二〇〇円 (送料共)